

燕市 農業委員会だより

農業者年金特集号



農業者との意見交換会

農業者との意見交換会

農業者年金 加入のすすめ

燕市農業委員 笹川 勇雄

(農業者年金加入推進部長)

「備えあれば憂い無し」ということわざがあるように、老後の備えが必要だと思います。

年金加入者の声を聞いてみると「老後の足しになれば」という人や「貯金と考えている」人など年金の重要性を感じました。老後の生活を考えるうえで、もう一つの年金として少子高齢化社会でも安定している確定拠出型の農業者年金は、保険料を月額2万円から6万7千円と自由に決められ若い時期から補助金を受けられ老後の設計が立てられます。また、税制面でも全額、社会保険料控除が受けられます。働けるうちに資産を残し、老後の趣味や楽しみにつながります。

これからの課題として年金に加入しやすい仕組みを作っていくことが大切だと思います。

加入のご相談は、身近な農業委員

またはJAにお願いします

農業委員の一言



燕市農業委員
瀬戸 一義 (吉田本町)

令和3年8月1日に農業委員として任命を受け、2年6ヶ月活動を行ってまいりました。

農業委員の当面の課題としては、遊休農地及び担い手不足の解消だと捉えております。担当地域の遊休農地をパトロールしていますと、農村の空き家が多く目につくようになりました。

幸い、私の担当地域においては農作業受委託が上手く機能しているためか、今のところ遊休農地が見当たりません。受託と委託のバランスが保たれている現状はいいと思いますが、今後受託の受け皿が限界を迎えるのではないかと考えています。これに加えて、米価の値下がりや肥料・原油の高騰なども影響し、さらに担い手不足が加速してしまうのではないかと懸念しています。このような状況も踏まえ普段の農地パトロールに目を配らせ、気になったことがあれば生産者の方にお声がけし、遊休農地が発生しないよう務めたいと思います。

編集後記

昨年に続き「農業委員会だより」第6号を発行しました。

新型コロナウイルス感染が5類に移行し、人々の動きが活発になっており、経済も少しずつ以前のように戻ってきたのではないのでしょうか。しかし、今年の猛暑により農作物が不作だったため、農業経営が苦境に陥っています。

先が見通せない中で年金の重要性が改めて認識されています。今年度は農業者年金の加入のメリットや農業委員の一言などを掲載しました。これからも活動の見える化を目指し「農業委員会だより」などを通じて活動内容を紹介してまいります。

広報委員長 金山 吉夫

副委員長 山田 直子／荻原 一郎
澁木 誠治／瀬戸 一義
片桐 正敏

農業者との意見交換会を開催しました

11月17日に農業委員と農業者との意見交換会を行いました。JA新潟かがやきが組織する稲作、園芸、女性、青壮年の会員の方から農業者8名、農業委員18名、農協アグリセンター長3名、県、市のオブザーバー3名が出席しました。主な意見は、補助事業の要件緩和に関する事、農業機械のレンタル制度、国内・海外研修費の補助、マッチング型の商談会の開催などの要望がありました。農業者の思いを直接聞くことができ有意義な時間でした。農業委員会といたしまして、これら農業者の声を踏まえ、市へ「意見書」という形で提出いたしました。



全国農業新聞 全国農業新聞を購読してみませんか

全国農業新聞は、農業者の公的代表機関である農業委員会組織が発行する農業総合専門紙です。

「週刊」の時間を活かし、情報がわかりやすいように解説的にまとめています。

また、多くの読者の皆様に満足して頂けるよう、家族全員が楽しめる記事も充実しています。さらに、全国47都道府県にある支局の県版・地方版の充実により、地域の元気で特徴ある明るい話題や地域独自のイベント情報などの提供に努めています。

発行日：毎週金曜日(月4回)

購読料：月額700円(送料・税込)

申込先 農業委員会事務局／電話 0256-77-8251
(毎月15日までの申込で、翌月から送付いたします。)



農業者年金加入者の声



親のすすめで加入しました

大学を卒業後、家業の造園業を継ぐためにUターンし、同時に親元就農しました。

経営規模は水稻8ha、内受託5.6haを耕作しており、春作業の畔塗りから始まり、耕起、代掻き、田植え、秋の稲刈りまでの一連の作業は私がオペレーターを行っています。水管理などは父が行い、農繁期の時は母も手伝います。家族内で経営協定を結び、役割分担を話し合い、無理な働き方をしないことを経営目標としています。

現在の経営で感じていることは、将来は機械の無人化により、今より少人数でも作業ができるようになることと、いかにコストを低減できるかを考え工夫していかなければならないと感じています。今後は、経営面積をもう少し増やし、全て一等米となるような米づくりをしたいと思っています。収穫後の一番の楽しみは、大学の同級生に「美味しいお米がほしい」と言われ自分が作ったお米を食べてもらうことです。農業者年金は年金担当者と親の勧めがあり、国民年金の上乗せとして、将来のことを見据え加入しました。



横田 山崎 翔平

将来の安心のために加入しました

大学を卒業後、リーマンショックでなかなか就職活動が厳しい時期でしたので、Uターンし両親の農作業を手伝い、25歳で親元就農しました。

経営規模は水稻3.5ha、その他、トマト、ブロッコリー、キャベツ、大根などの園芸作物を約1ha耕作し、農協、市場、直売所などへ出荷しています。数十年前に米価が下がり、経営を安定させるためにどうしたらよいのか、農協に相談したところ「トマト栽培」を勧められ今も継続しています。

現在の経営で感じていることは、休日がしっかりとれるようにしたいと思っていますが、園芸作物の収穫作業は天候によって左右されるため、なかなか決められた休日を取ることが難しく苦慮しています。収入を安定させるためには、これ以上作付面積を増やすことはできないので、いかに経費を抑えるかということですが、ロシア・ウクライナ問題により肥料等が高騰しているため行政からの支援があるとありがたいです。農業者年金は国民年金の上乗せとして、将来のために加入しました。



佐渡 坂 爪 孝 博

農業者年金

若いうちから! 女性にも! 節税対策にも!

長い老後を最後までサポート!

全額社会保険料控除で大きな節税効果!

保険料国庫補助による手厚い支援!



詳しくは… 農業者年金基金 検索 <https://www.nounen.go.jp> 独立行政法人農業者年金基金

農業者年金の内容やご相談については、最寄りの農業委員会がJAまたは農業者年金基金にお問い合わせください。

TEL: 03-3502-3199 (専門相談員)

TEL: 03-3502-3942 (企画調整室)



市長へ「意見書」を提出しました

11月17日に行われた農業委員と農業者との意見交換会での意見をまとめ、12月20日に市長へ「燕市農地等利用最適化の推進施策に関する意見書」として提出しました。意見書の内容は、次のとおりです。

1. 持続可能な農業経営に向けた支援について
2. 農地等の利用の最適化の推進について
3. 担い手への農地利用の集積・集約化について
4. 地域計画の実効性の確保について
5. 農業委員会活動の啓発について

本年度から、これからの農業を考える「地域計画」の策定を進めており、関係機関が一体となって地域農業の目指す姿を考え実現することが求められています。

